

現代アラブ世界の形成とアラビア語アカデミーの役割

平成 18 年度編入
派遣先国：エジプト，シリア，ヨルダン
派遣先機関：アラビア語アカデミー
竹田 敏之

キーワード：アラビア語アカデミー，現代標準アラビア語，文法改革，辞書編纂，現代アラブ世界

派遣先機関の概要

アラビア語アカデミーは，正則アラビア語の保持，辞書編纂，文法規則や学術用語の整備などを目的とし設立された研究機関である。1919年にシリアに，次いで1932年にカイロ，1947年にイラク，そして1976年にヨルダンに創設された。エジプトを中心に20世紀初頭に始まったアラビア語文法改革では，カイロ・アラビア語アカデミーが打ち出す指針や見解が，文法規則の再整備に大きな影響力を持った。現代アラブ世界の最も標準的な辞書として知られる『アラビア語中辞典』もこのアカデミーによる編纂である。カイロ・アラビア語アカデミーの歴代メンバーには，ターハー・フサイン，アフマド・アミンなどアラブを代表する学者や知識人が名前を連ねる。年に一度開催されるアカデミー協議会には，各界からのアカデミーメンバーと海外研究員に加え，世界各国からの研究者らが一同に集う。現代アラブ世界において，アラビア語を論じる一つの場を形成している。



カイロ・アラビア語アカデミー（1932年創立）。アラビア語特有の音を表す「ダード」の文字がアカデミーのロゴになっている。

派遣先でインターンシップを希望した動機と，派遣前に設定した目標について

博士論文において派遣者は，20世紀から現代にかけてのアラビア語文法改革の分析を中心に，現代標準アラビア語の成立と現代アラブ世界の形成の解明に取り組んでいる。文部省や改革主義者によって実際に行われてきた文法改革を分析する際，より学術的な側面を持ち常に改革案に対する指針や決議を出してきたアラビア語アカデミーの存在を見逃すことはできない。しかし，アカデミーに関する先行研究は，創設の経緯やその理念など，歴史的事項を論じたものが多く，アカデミーの実際の活動と現代におけるアラビア語との関係については研究上の空白であった。インターンシップを通して参加型の調査をすることにより，アラビア語の現状とアカデミーの活動を具体的に把握することが可能と考えた。本調査では，①辞書委員会による語彙の整備，②文法改革へのアカデミーの立場を中心に，アカデミーの活動とその実態を明らかにすることを目指す。



ヨルダン・王立アラビア語アカデミー（1976年創立）

派遣期間中の活動について

カイロ・アラビア語アカデミーでは、インターン生として週に二回開かれる辞書委員会に出席した。委員会はこれまで高校生用の『簡約アラビア語辞典』や、アラブ世界の標準的辞書として名の高い『アラビア語中辞典』などの編纂を行ってきた。教育分野との関連性の高さからも、数あるアカデミー委員会の中でも非常に重要な地位にあるといえる。調査時、委員会では、『アラビア語大辞典』の「ラー (raʾ)」の項の校正と編集を行っていた。アカデミー副総裁のカマル・ビシュル教授を議長に、4名のアカデミーメンバーと、各学術分野から5名の専門家、さらに編集スタッフ3名により、各項目の母音符号から語義、語源、典拠の確認に至るまで、綿密な議論が展開され、派遣者にとっても大変有益な知見が得られた。

シリアでは、ダマスカス・アラビア語アカデミーに関する訪問・調査を行った。副総裁であるアブドゥッラー・ワースィク教授に、アカデミーの歴史とその活動内容に関する聞き取り調査を実施した。図書室責任者であるハイルッラー氏からは、アカデミー出版物と、近年開催された協議会や研究会について具体的な説明を受けた。またアブドゥッラー・ワースィク教授の指導の下、1994年に高等教育省で開催された「文法学会議」に関する資料収集を行った。さらに、ほぼ全てのアカデミー出版物を所蔵しているアサド図書館において「ハムザの正書法」に関する文献調査を行った。

続く調査地ヨルダンのアンマンでは、ヨルダン・王立アラビア語アカデミーに関する訪問と調査を行った。副総裁であるアブドゥルハミード教授から、アカデミーの活動と、文法改革へのアカデミーの立場について知見の提供を受けた。またスタッフのファーイズ氏から、図書館とアカデミー出版物に関する詳細な説明と、1988年に開催された「ダイグロシヤに関する会議」についての説明を受けた。

最後に、カイロ・アラビア語アカデミーにある「アカデミー統一機構」の代表シャアバーン氏を訪問し、統一機構の歴史とその機能に関する聞き取り調査を実施し、同アカデミー図書館にて関連資料・文献の調査を行った。



ダマスカス・アラビア語アカデミーにて、アブドゥッラー・ワースィク教授への聞き取り調査。

派遣先で印象に残った体験や経験

カイロ・アラビア語アカデミーは2007年、創立75周年を迎える。派遣時のアカデミーでは、3月に開催される式典と国際会議の準備が着々と進められていた。2007年3月17日に開催されたこの式典は、アラブ各紙でも大々的に取り上げられている。アラブ世界でも、インターネットの普及による言葉の乱れの広がりを嘆く声が聞かれるが、それに対応して正則への関心も急速に高まっている。ことカイロで

はまさに 21 世紀のアラビア語の行方に注目が集まっているという印象を受けた。街中の書店や、カイロで開催された国際ブックフェアでは、『グローバル化とアラビア語』や『アラビア語の未来』と題した書籍、さらに要綱などの解説を中心とした古典文法書の復刻版が数多く並んでいた。安価で古典を入手できるようになったのも、庶民がプリントメディアの恩恵に浴するようになった現代に入ってからのことである。カイロの街中には「2007 年はアラビア語の年」という看板がいたる所に掲げられていた。臨地調査を行う中で、アラブ社会における人々のアラビア語への関心の高まりを非常に強く感じた。



カイロの街中で。2006 年に引き続き、2007 年もアラビア語の年である。無料アラビア語講座やアラビア語コンテストの案内も。

目標の達成度や反省点について

カイロ・アラビア語アカデミーが総力をあげて刊行中の『アラビア語大辞典』の編纂作業にインターン生として参加することで、具体的な編纂方法や、専門用語を含めた現代用語の整備について精緻に把握することが可能となった。また、文法改革や現代語の整備に関する各国アカデミーの活動やその立場を調査・比較検証することで、見解や指針の相違を調整ないしは統括する機関である「アカデミー統一機構」の重要性が明らかになった。カイロ・アラビア語アカデミーを中心としたこの機構の存在が、アラビア語に関する知的論争の場となり、ひいては現代標準アラビア語の形成を促進する一つの要素となっている。また、アカデミーに関する情報・資料収集の面でも予想以上の大きな成果を上げることができた。それはインターンシップという参加型の調査を通じて、アカデミー内部での活動を実際に観察し、その実態を把握することができたことによる。今回の調査で構築された人的ネットワークを基礎に、アカデミーの実態調査を今後さらに推進していきたい。